

3) グループインタビュー

調査対象とした3つの設問ごとに、以下のような声が聞かれた。

(1) ワシントングループの設問

- ü 個々の設問については、わかりにくいという意見もあった。
 - 「眼鏡を使用しても」、「補聴器を使用しても」とあるが、もともと使用していない場合には該当しないと思う可能性がある。また、「コンタクトレンズを使用している場合はどうなのか」というような、表現の問題に対する指摘もあった。
 - 一部の設問は、複数の行動例（例：「思い出したり集中したり」）が挙げられているが、それぞれの行動で苦勞の程度が異なる場合は判断しづらい。
- ü 「苦勞」という表現は、気になるという意見が多かった（「苦勞」は主観的であることから。例えば客観的に同じ負担でも、人によって「苦勞」と感じるか・感じないかは違う、ということが意見があった）。むしろ、「不便」、「不自由」等の表現の方が良いという意見があった。

(2) 欧州統計局の設問

- ü 設問が淡白であり、二択の設問形式で何がわかるのだろうか（障害が捉えられるのだろうか）という意見もあった。
- ü 以下はわかりづらい問題として意見があった。
 - 健康状態の問における「ふつう」は、どのような水準なのかが判断しづらい。「ふつう」は健康な状態なのではないか。
 - “慢性的な健康問題”には何が含まれるのかはわかりにくい。疾患と健康問題の違いがわかりにくい。

(3) WHODAS2.0

- ü 量的に多いという意見が多かったものの、表形式なので答えにくくはなかったという意見、個々の設問は具体的で答えやすいという意見があった。
- ü 精神的な障害を尋ねる設問が他と比較して多いのでは、という意見もあった。
- ü よく読むとわかりにくい設問としては、以下があがっていた。
 - 「家庭で要求される作業」とは家事なのか、他のことを意味しているのか。
 - 「地域活動」はもともと行っておらず、判断できない。また、例示としての宗教活動などは唐突な気がする。
 - 「毎日の仕事」とは、稼ぐ仕事なのか、家事でも良いのか。 他

(4) その他

- ü 手帳等の所持に関する設問は、気にしない(特段、その設問があるから回答に不快に思ったり、回答をやめたいとは思わない)という意見があった。
- ü その一方で、記述したくないという意見もあった。
- ü 記述を求める場合は、調査タイトル、冒頭文、調査趣旨等において、活用方法が明確になるようにしてほしいとの意見もあった。